

2018年度
日米知識人交流事業

U.S.-Japan
Public Intellectuals Network

多
文
化

ジャネット・ムルギア氏 講演会

多文化共生時代の教育

Janet Murguía Public Lecture
—The Journey Towards Equity—

CGP
The Japan Foundation
Center for Global Partnership



Lecturer
ジャネット・ムルギア
Janet Murguía
ウニドスUS会長兼CEO
President and CEO of
Unidos US

Equity

CGP
The Japan Foundation
Center for Global Partnership

August 17, 2018

日米知識人交流事業

国際交流基金日米センター(CGP)は平成27年度より米国の多様な知的コミュニティのリーダーを日本に招へいし、日米知識人のネットワークを形成する交流事業を実施しています。今年度は、ジャネット・ムルギア氏(ウニドスUS会長兼CEO)を招へいし、8月17日に東京にて公開講演会を開催いたしました。



挨拶 Remarks

茶野 純一

(国際交流日米センター所長)

日米センターは国際社会が直面する重要な共通課題を解決するため、日米両国が世界の人々とともに知恵を出し合い、協力していく必要があるという考えから、1991年に国際交流基金の中に設立されました。外交、安全保障、国際経済の分野を中心に、現代社会が直面する様々な政策的課題について、日米双方の知的コミュニティの協力、協働による意見交換を進め、その解決に向けた専門家同士の研究対話を支援するとともに、政策指向型フェローシップを通じた研究者支援や、日米双方の相手国理解の深化、拡大に向けた公開セミナーなどを通じて日米関係の緊密化に取り組んでいます。

このたび、米国のヒスパニック・ラテン系コミュニティの最有力団体で、公民権、教育、医療福祉等の諸課題に対するラテン系住民の声を拾い上げ、それを政策形成過程に反映させるために全米で活動を行っているウニドスUSの会長兼CEO、ジャネット・ムルギア氏を日本に招へい致しました。今回の講演及びそれに続く清水睦美日本女子大学教授との対談では、ムルギア氏が強調する、多文化が共生し包摂的なコミュニティを社会全体が形成していくために必要な「教育への投資」の重要性と、多様な文化や背景を持つ個人のアイデンティティが尊重されつつ共生が図られる社会の創設について、アメリカ社会、とくにヒスパニック系コミュニティの経験や活動事例にも触れながら議論されました。

今回の講演会の開催にあたりましては、ウニドスUSをはじめ関係者の皆様より多大なご協力を賜りました。国際交流基金日米センターを代表いたしまして、心より御礼を申し上げます。

U.S.-Japan Public Intellectuals Network Program

The Center for Global Partnership (CGP) has implemented the exchange program that invites intellectual leaders from diverse communities in the United States in order to promote the networking of intellectuals in both countries since 2015. This year, we welcomed Dr. Janet Murguía (President and CEO of Unidos US) and held a public lecture in Tokyo on August 17.

Mr. Junichi Chano

Executive Director,
The Japan Foundation Center for Global Partnership

The Center for Global Partnership was established within the Japan Foundation in 1991 to promote collaboration between the people of Japan, the United States, and beyond, in order to address issues of global concerns.

We seek to build stronger and closer ties between Japan and the United States through the support of research and dialogue initiatives between the two countries aimed at resolving a wide range of policy issues modern societies face. With an emphasis on the fields of foreign policy, national security, international economics, and developing human resources, we support fellowship programs focusing on policy research as well as strive to further increase interest in Japan among Americans by conducting public symposia and seminars.

As part of our effort to promote intellectual exchange and enhance understanding of American affairs, we have invited Dr. Janet Murguía, the president and Chief Executive Officer of Unidos US, the most influential organization in the U.S. reflecting voices of Latinos. The main themes of her lecture, as well as the subsequent dialogue with Professor Shimizu, encompass “investment to education” and how to create a society where multicultural identity is respected, with lessons-learned culled from cases in the U.S., especially from Hispanic community activities.

This public lecture has been made possible with the cooperation of Unidos US. On behalf of the Japan Foundation Center for Global Partnership, I would like to express my deepest appreciation to all persons concerned.



講師 Lecturer

ジャネット・ムルギア

(ウニドスUS会長兼CEO)

Janet Murguía

President and CEO of Unidos US

ジャネット・ムルギア氏は、ヒスパニック系では米国最大規模の公民権及びアドボカシー団体であるウニドスUSの会長兼CEOを務める。ムルギア氏は、2005年よりウニドスUSの事業強化及び活発なアメリカの民間団体としての影響力の向上を模索してきた。ムルギア氏は、教育、医療福祉、移民、公民権や経済といったヒスパニック・コミュニティが抱える課題に対して、ラテン系住民の声を拾い上げ、広める活動も行っている。ムルギア氏が成し遂げてきた数々の業績は高く評価され、ムルギア氏はワシントンD.C.の雑誌で「ワシントンで最も影響力のある女性100人」に2度選ばれ、NonProfit Timesの「有力かつ影響力のあるトップ50人」のリーダーとしても選ばれている。ウニドスUSに勤める前は、カンザス大学の副学長及びクリントン政権において大統領副補佐官としての任務に従事してきた。

ムルギア氏は、カンザス州、カンザス市で育ち、カンザス大学にて3つの学位(ジャーナリズム、スペイン語、法務博士)を取得。また、名誉学位としてカリフォルニア州立大学から名誉文学博士、ウェイク・フォレスト大学から名誉法学博士を授与されている。

ウニドスUSについて

1968年設立。ヒスパニック系では米国最大規模のアドボカシー団体。全米37州に300近くのコミュニティ組織のネットワークを持つ。本部はワシントンDCに本部があり、シカゴ、ロサンゼルス、マイアミ、ニューヨーク、フェニックス、サンアントニオに地域オフィスを構える。教育や医療アクセスの向上、市民権獲得支援、労働条件の改善などのアドボカシーを、議会証言やイベント開催、コミュニティトレーニングなどを通じて行う。2016年にはアリゾナ州、フロリダ州の子供医療保障プログラムの復活などの政策実現に貢献。

Janet Murguía is President and CEO of Unidos US, the largest national Hispanic civil rights and advocacy organization in the United States. Since 2005, Murguía has sought to strengthen Unidos US' work and enhance its record of impact as a vital American institution. Murguía has also worked to amplify the Latino voice on issues affecting the Hispanic community such as education, health care, immigration, civil rights, and the economy. Murguía has been recognized on numerous occasions for her work. She has been selected twice as one of Washingtonian magazine's “100 Most Powerful Women in Washington” and as one of the Non Profit Times' “Power and Influence Top 50” leaders. Prior to Unidos US, she worked at the White House, ultimately serving as deputy assistant to President Clinton, and as executive vice chancellor for university relations at the University of Kansas (KU).

Janet Murguía grew up in Kansas City, Kansas. She received three degrees from KU: a B.S. degree in journalism, a B.A. degree in Spanish, and a J.D. degree from the School of Law. She also received an honorary degree—Doctor of Humane Letters—from California State University, Dominguez Hills and an honorary Doctor of Laws from Wake Forest University.

About Unidos US

Founded in 1968, Unidos US is the United States's largest Hispanic nonprofit advocacy organization, having 300 community-based Affiliate organizations in 37 states in U.S. regional offices in Chicago, Los Angeles, New York, Miami, Phoenix, San Antonio and is headquartered in Washington, D.C. It advocates in favor of progressive public policy changes including better access to education and health care, path to citizenship, improvement of labor environment, through Congressional testimony, various events and community trainings. In 2016, it contributed to the success of Every Student Succeeds Act (ESSA) in Arizona and Florida.

ジャネット・ムルギア氏 招へい日程表

Schedule of Ms. Janet Murguía's stay in Japan

8/12
Aug.12

日本着 東京着 Arriving Tokyo
Arrival



8/15
Aug.15

京都 京都文化視察 Cultural Experiences in Kyoto
Kyoto

8/13
Aug.13

東京
Tokyo

加藤丈太郎氏 (早稲田大学大学院博士課程) 先生と
チョウ・チョウ・ソー氏 (NPO法人
ミャンマー日本教育の
かけはし協会、理事長) 面談
Meeting with
Mr. Jotaro KATO
(Waseda University Doctoral Course)
Mr. Kyaw Kyaw Soe
(President of NPO Association of
Myanmar-Japan Bridge for Education)



森和重氏 (国際社会貢献センター(ABIC)、
中南米コーディネーター) 面談
Meeting with
Mr. Kazushige MORI (Coordinator for
Latin America, Action for a Better
International Community(ABIC))



8/16
Aug.16

京都 → 東京
Kyoto Tokyo

東京着 Return to Tokyo



8/14
Aug.14

東京 → 愛知 → 京都
Tokyo Aichi Kyoto

八木哲也 衆議院議員(自由民主党) 面談
Meeting with Rep. Tetsuya YAGI
(Member of the House of Representatives,
Liberal Democratic Party)

太田 稔彦 豊田市長 面談
Meeting with Mr. Toshihiko OTA
(Mayor of Toyota City)

保見団地へ移動
Moving to Homi Danchi (Public Housing
Development)

ラウンドテーブル・リーダー間対話
「多文化共生社会の縮図
—多様なセクターからの支援と
協働の在り方—」
Round Table with stakeholders of Homi
Danchi "Epitome of Multicultural Society:
Support and Cooperation from Diverse
Sectors"

保見団地見学
Tour of Homi Danchi

NPO法人トルシーダ主催
保見団地交流会
Welcome Reception at Homi Danchi
hosted by Torcida



8/17
Aug.17

東京
Public Lecture (Tokyo)

外務省 訪問
Visit to the Ministry of Foreign
Affairs

佐々木綾氏(マウリシオ・デ・ソウザ・
プロダクションズ・ジャパン株式会社)
面談
Meeting with
Ms. Aya SASAKI (Director,
Mauricio de Sousa Productions
Japan Co., Ltd)

公開セミナー
(於 国際文化会館)
Public Lecture at
International House of Japan



8/18
Aug.18

東京 東京視察
Tokyo Cultural Experiences in Tokyo

8/19
Aug.19

日本発 東京発
Departure Depart from Tokyo

ムルギア氏講演会

「多文化共生時代の教育」

—The Journey Towards Equity—

講演会概要

在留外国人の急速な増加に伴い、地域社会との軋轢や摩擦が生じ、教育、社会保障、労働環境、経済格差など様々な面での課題が日本各地で噴出してきています。社会で存在感を増す外国人住民をいかに包摂していくのかは日本全体の課題であり、地域社会の分断や世代間の負の連鎖を断ち切るために教育問題に向き合うことは、とりわけ重要です。

講演者のムルギア氏は、米国最大のヒスパニック系アドボカシー（権利擁護）団体であるウニドスUSの会長として、長年にわたり、エスニック・マイノリティであるヒスパニックコミュニティの地位向上や教育改善などに取り組んできました。社会的・経済的に弱い立場におかれがちなヒスパニックの人々が、教育や意識改革を通じて、多民族国家・米国のなかで生きる力を獲得してきた経験は、多文化共生時代の日本とも共通する現在進行形のチャレンジです。本講演会では、日本国内における外国人子弟の教育問題に取り組む日本女子大学の清水睦美教授との対談形式で、日米における多文化共生のあり方、現在の課題、そして、それらを克服するために何が求められているかなどについて議論しました。

講師 / ジャネット・ムルギア
(ウニドスUS会長兼CEO)

日時 / 2018年8月17日(金) 18:30~20:00(18:00開場)

会場 / 国際文化会館 別館2階 講堂

主催 / 独立行政法人 国際交流基金日米センター(CGP)



モデレーター

清水睦美
(日本女子大学 教授)

日本女子大学人間社会学部教授。専門は教育社会学・学校臨床学。1997年より神奈川県大和市を中心に外国人の子どもたちの学校・地域・家庭での生活や適応に関する調査を、参与観察や聞き取りにより継続している。2005年には博士号(教育学)を取得し、『ニューカマーの子ども達—学校と家族の間の日常世界』(勁草書房、2006)を刊行している。これらの研究活動と並行して、外国人の子どもに対する教育のあり方を学校教員と検討したり(『外国人生徒のためのカリキュラム』嵯峨野書院、2006)、外国人の子どもたちとの自治的な活動を支援したり(『いちよう団地発!外国人の子どもたちの挑戦』(岩波書店、2009)する社会的活動も行っている。2007年には、外国人の子どもを中心とする弱い立場に置かれた子どもたちを支援するNPO法人教育支援グループEd.ベンチャー(<http://edventure.jp/>)の立ち上げにも参画し、現在も理事として活動に積極的に参加している。2014年からは、青年になったニューカマー二世世代へのインタビュー調査を実施し、日本の学校経験や家族との生活の経験を振り返る聞き取り調査を行いながら、現在の日本の学校教育の課題を検討している。

「日本が目指す多文化共生社会の姿とは?」

日本は今、分岐点、それも国家の存亡の分かれ道にあると思います。高齢化社会に入り、新しい労働者のニーズが出てきていますが、それを日本の中だけで確保するのは難しいようです。ただ、日本は労働者不足を短期的な方法で補おうとしているようにも思えます。しかし、より長期的な解決策、持続可能な解決策も必要となっています。つまり移民計画をきちんと作成し、この問題に対応していく必要があります。

こうした計画は、効率性だけを追求するのではなく、日本の価値も反映したものを追及してほしいと思います。また、移民受入の課題に長期的に取り組むにあたって、移民の家族が一緒にいることにも価値を置くものであって欲しいです。なぜなら、日本は家族に価値を置く社会であると思うからです。そうすることで、労働者は経済的メリットを日本にもたらしてくれるようになるのです。

効率性だけを
追求するのではなく、
日本の価値を反映したものを
追及してほしい。



しかし、現在の取り組みを見ている限り、こうした価値提案(Value Proposition)がなされているように思

えません。公平性(Equity)を中心に据えた価値提案、言い換えれば、日本人と外国人がともに尊重され、恩恵を受けられる方法が求められています。

「日本の将来のために投資」

愛知県豊田市の保見団地を訪問しました。住宅の状況を見て驚きました。非常に厳しい生活をしている人たちです。こうした状況に対して、十分な支援を行うことが難しいのは理解していますが、それでもこういう人たちのために、もっといろいろな支援があるべきだと思います。とくに、彼らの子供たちへの教育に投資することを考えてほしいと思います。

いろいろな方から教育に関する課題について聞きました。日本語教育の課題、継承語教育の課題、外国人子弟への特別な配慮の課題など、多くの外国人労働者の子どもたちが抱えている問題です。しかし、解決策がないとは思いません。このような子どもをどのように捉えるか、そして彼らに対する適切な支援は何か。解決策は必ずあるはずなのです。

これは、日本の独創性を発揮して前進していく機会でもあります。日本の知恵を使えば、きちんとした道筋を見つけることができると思います。私は日本に来て、日本のインフラに感激しました。これは世界が羨むものです。一方で世界に誇れるインフラを整備できたのであれば、もう一方で外国人への教育、住居、医療を提供し、彼らがこの国に利益をもたらしてくれるような解決策を創り出すことが出来るはずだと信じています。

「米国(ウニドスUS)の事例」

私はここ10年近くウニドスUSという組織の会長兼CEOを務めています。この組織は米国最大規模のヒスパニック・ラテン系コミュニティのためのアドボカシー団体です。50年間にわたり、ヒスパニック・ラテン系コミュニティの活動の要となってきました。そして、彼らのアメリカンドリーム、その追求を阻むものに抵抗してきました。

我々は、移民改革を提唱しています。そして移民のインテグレーション(社会への統合)を主張しています。とい

うのも、これが移民にとっての利益だけではなく、米国にとっても利益になると考えているからです。移民への支援が法に基づき行われ、移民を市民として受け入れることで、彼らは活発な消費者になります。起業家になります。納税者になります。雇用主になります。すべてのセクターのリーダーになることができます。これが、移民のインテグレーションの成果です。これは、決して慈善事業であるから行うのではありません。現実的に経済的なリターンがある、利益があるから行うのです。家族、コミュニティ、そして国家にとってメリットがあるのです。

ウニドスUSは、若いラテン系の人たちに対する投資の必要性を訴えています。彼らに今、投資しなければ、彼らは自信をもって社会へ出ることができないでしょう。我々は経済をより強く成長させていく必要があります。そのためには、投資が必要です。彼らが、高齢化する米国社会を支えてくれるでしょう。すべてのアメリカ人にとって、これは理にかなうことです。こういう若い人たちができることをし、将来世代に貢献する。そのためには今、教育に投資をすること、そして仕事のスキルを上げさせていくことが必要です。

決して慈善事業であるから
行うのではありません。
現実的に経済的なリターンがある、
利益があるから行うのです。

「多文化共生のスターたち」

皆さん方にも、多文化共生のスターがいます。日本の将来の道を決めるのは、そういった地域レベルで活動を進める人たちです。伊東浄江さん、この方は保見団地のNPO法人トルシーダの代表を務めています。この方は、「ブラジルと日本のかけ橋」を作っている方です。そして、ブラジル人社会と日本の家族をつなげています。非常にポジティブで、前向きな生命力にあふれた活動家です。

こういったリーダーがいて、地域レベルの運動を進め

ていくことができます。物理的に近いということは重要です。伊東さんのような個人が現場で活動をしていることはものすごく重要で、それによって橋が作られていくのです。

別のスターもいます。保見団地に住んでいるグスタボ・ムラヤマさんです。この方はブラジルの出身で、6歳のときに日本にやって来て、日本の学校に通い、必死に日本語を勉強して、そしていま人材派遣会社で仕事をしています。外国人労働者の就業支援に貢献しているのです。グスタボさんのストーリーにはパワーがあります。この人も橋をかける人、日本の将来の道を作る人です。

もっと多くの人たちがコミュニティに入り、何が起きているかを実際に見て、そして外国人との関わり、対話を推し進めなければなりません。米国において、私はコミュニティベースの組織、300の組織と一緒に仕事をしています。私は、コミュニティの力を強く信じています。私は、日本で1週間過ごして、コミュニティにおける関係づくり、そして橋をかけるという作業が進んでいるのを実際に目にできて本当に嬉しかったです。

同時に、強いリーダーも必要です。豊田で会った豊田市の太田市長の言葉には感銘を受けました。こういう方たちは、コミュニティで何が起きているか、理解していらっしゃいます。そして、多様性は豊田市の強みであるとおっしゃっていました。課題があったときに、よそ見しないで、その課題を見つめ、提案できるリーダーが必要です。そういう人たちをサポートすることも必要です。

他にも素晴らしい人たちが日本にはいます。東京に来た最初の日にチョウ・チョウ・ソーさんにお会いしました。ミャンマーからの難民です。今は、起業家としてご自身のレストランも持っています。それだけでなくソーさんは、学校を作るために、NPO法人を立ち上げ他のミャンマーの難民が日本語とミャンマー語を学べる場を提供しています。

このような個人の人たち、そういう人たちが力を発揮する、チャンスを与える。そうすれば、また何かを戻したい、還元したいと考えるでしょう。そういう態度が築かれていきます。こういう人たちが日本に来て、そして貢献する。彼らは、自分のためだけではなく、日本の将来のために投資をしているのです。

皆さん方にも、多文化共生の
スターがいます。
日本の将来の道を決めるのは、
そういった地域レベルで
活動を進める人たちです。

「私の体験」

私のスピーチの締めくくりに、個人的なお話を申し上げます。私の家族の話です。これは、国が勤勉な人そして規則を守るすべての人に門戸を開いたらどうなるかという一例です。

私の両親は、素朴で控えめな人間です。1950年代初頭、彼らは米国に大きな夢、希望を抱いて、子どもたちのためにメキシコからやってきました。私の父親は7年間、母親は5年間しか教育を受けていません。父親は、いろいろなところで仕事をしました。最終的には、カンザスシティにある鉄鋼工場で37年間仕事をしました。子どもは7人。私ども9人家族は、ものすごく小さな家に住んでいました。トイレは1つ、バスルームが1つ、私の兄弟も私もまるで寄宿舎のように1つの大きな寝室で寝ていました。今でも覚えています、私が8年生になるまで、家に電話はありませんでしたし、乾燥機もなかったです。そして1950年代

のカンザスシティでは、映画館にはメキシコ人用の席がありました。私の父親と他の人たち、すなわち有色人種の人たちは、そこに座らなければいけませんでした。トイレも別のトイレを使えと言われていました。

私の両親は私たちに価値観を植え付けてくれました。それらは、家族の大切さ、信仰の大切さ、コミュニティの大切さ、勤勉の大切さなどです。そして犠牲を払うことの大切さです。また両親は、私たちに自分たちが大事な存在であるということを教えてくれました。大きな夢を描かせてくれました。

両親はしっかりと教育を受けていませんでしたが、子どもたちには、教育の価値を教えてくださいました。1980年代の初め、私たち子どものうち5人が同時期に大学に通っていました。これは、奨学金に恵まれたから、また、それ以外にも金銭的な支援プログラムがあったから可能だったのです。結局、7人の子どものうち6人が大学の学位を修得し、4人が弁護士になりました。

私たちの経験は、両親が、一生懸命働けば、アメリカ人になれ、アメリカンドリームを実現することが出来る国に来たからこそ実現したのだと思います。このような新しい人たちに対して門戸を開いているということ、これが米国を作ってきたわけです。私どもの多様性、これが強さなのです。国として米国は、もっと多様性を重要視しなければなりません。だからこそ米国は、今後とも希望の灯りであり続けなければいけない。そしてまた、人への投資を続けなければいけないのです。



質疑応答①

《清水氏 質問》

日本が家族を大事にしているというのは、私たちも実感として感じています。一方で日本は、国籍の取得に関して血統主義を持っています。このため外国籍の親から生まれた子どもたちがなかなか日本国籍を取得できないという現状もあります。この日本の血統主義と米国の出生地主義についてどのように考えますか？

《ムルギア氏 回答》

これは、私が日本に来てからの一週間の観察を述べるだけですが、日本と比べて、多くの米国人にとって出生地主義、つまり誰が米国人になるかということは、あまり主観的な問題ではないと感じています。ただ、日本の場合はどうなのか。これは日本の中で解決策を出さなくてはなりません。

国籍、アイデンティティ、文化をどう考えるか。これは非常にセンシティブな問題で、快適ゾーンから1歩外に出て、こういった議論をあえてやらなければなりません。アメリカ人とは何なのかということも私どもは決めなくてはなりません。アイデンティティに関する議論は必要で、その中で、アメリカ人であるとは、外見が重要なのか、価値観の問題なのか、あるいは原則(principle)の問題なのか。あるいは共通の見方ができる人がアメリカ人なのかという議論をしてきました。これは、たやすい議論ではありませんが、必要なものです。

アメリカ人であるとは、外見が重要なのか、価値観の問題なのか、あるいは原則(principle)の問題なのか。あるいは共通の見方ができる人がアメリカ人なのかという議論をしてきました。

質疑応答②

《清水氏 質問》

多様性が成長につながるという点について、最ものご指摘であると感じます。しかし、日本では、その子が日本

で何ができるのかということより、日本語の習得をふくめ日本社会に馴染んでいくことを最優先しているように思います。その結果、子供が親の言語を持ち続けられず、モノリンガルズムになっています。

日本の優れたインフラによる発展についてお話しになりましたが、日本の成長は、1つの言語で、効率よく阿吽の呼吸でやれたからできたという可能性があります。そうだとすると、多様性が成長につながるということを日本社会で理解してもらうには、どうすればいいでしょうか。

《ムルギア氏 回答》

多くの人から日本語を学ぶことが大事だということも言われました。では、日本語の習得をサポートするための日本の政策はどうなっているのか。バイリンガル教育、あるいは早期の児童教育をどう実現するのか。日本語を学ぶことが大事なのであれば、それは上から下にどういう形で指示されているのか、詳しく知ることはできません。様々な問題がからみ合っただけで、砂を入れるような形で、なかなか噛み合っていない。進捗が阻まれていると感じました。

こういう事を国として、議論していくことが必要です。そこについては、透明性も必要です。何が問題なのか、何をトレードオフしていくのかについても議論を恐れなことです。そして、多様性を恐れないことが大事です。他の人と異なっている、メリットを日本にもたらすと認識することが大切です。

多様性を恐れないことが大事です。他の人と異なっている、メリットを日本にもたらすと認識することが大切です。

若い人たちも意見があったら、どんどん意見を出してください。怖がってはいけません。議論を怖がらないでください。そして、どこまでの変化であれば受け入れられるのか、耐えられるのか。それがどんなものか、洗い出しをしてください。

やはり日本は今、岐路に立っていると思います。そうした中で、選択をしなければいけないのです。こうした時

に選択をするときの重要な要素は、国としての明るい未来を築くためには、どういう進路をとればいいのかを考えることです。それは、皆さん方が答えを出すしかないのです。

質疑応答③

《フロア参加者 質問》

米国で成功できた移民がいる一方で、成功できなかった方もいたと思うのですが、彼らは、何が原因で成功できなかったのでしょうか。どういうサポートがあれば成功できたのでしょうか。



《ムルギア氏 回答》

私たちの家族が成功した理由は教育です。教育へのアクセスがあった、それが鍵です。

適切な教育を受けさせる。アメリカは、今もこの課題に取り組んでいます。私の家族の成功ストーリーは特殊なわけではありません。アメリカには他にも多く成功した人がいます。

私たちは両親から、もう制限を受けることはないのだから、大きな夢を持ちなさいと言われて育ってきました。英語を学ぶということは、問題ではありませんでした。皆、それは学ばなければならないものという前提でした。そして、英語を学ぶのに必要な支援もありました。

若者たちを励まして大きな夢を持たせる。自分のことを大事にさせる。言語習得の支援と教育機会を提供する。そして、どういった支援があるのか情報提供を行っていく。こうしたことが非常に重要です。

若者たちを励まして大きな夢を持たせる。自分のことを大事にさせる。言語習得の支援と教育機会を提供する。こうしたことが非常に重要です。

質疑応答④

《フロア参加者 コメント》

外国籍の子供たちが多い学校で教員をしております。今日話を聞いて、日本に来てよかったと思える子たちが、ムルギアさんのように羽ばたけたらいいなと思っています。私よりも国を動かす力のある人たちがこの話を聞いて、もっと皆の応援団になってもらえたらなと思っています。今日はありがとうございました。

《ムルギア氏 返答》

私も今日、ある人に会って、「米国は夢を持てる国だ」と言われ、それについて考えていました。私たち米国には、課題も問題もあります。しかし、夢を持てる国であるのは悪いことではありません。日本にも、他の人達にチャンスを与え、皆が夢をかなえることができる場所があるかもしれません。それはある種の理想ですが、日本人であるとはどういうことか。そういうことも考えていく中で実現できるのかもしれない。

最後に、私がこの場でお話するのは、誰かがおっしゃったように正解を知っているからではありません。私達は答えを知りません。自分たちが失敗から学んだことやいくつかの成果を皆さんと共有しているに過ぎません。進むべき道はまだ長いのです。しかし、公平(equity)、公正(fairness)、価値(value)というレンズを通じて、課題に取り組むことによって、私たちはさらに力強い一歩を踏み出すことができるということは確かに言えるのです。ありがとうございました。

Janet Murguía Lecture

— The Journey Towards Equity —

Outline of the Lecture

The rapid increase of foreign residents in Japan caused conflicts and frictions within the local communities, and various problems in education, social welfare, working environment, economic disparity have become rampant throughout Japan. How to socially include the foreign residents in society is an important issue for Japan, and especially educational problems are important as to break the vicious cycle of local disparities and among generations.

Dr. Janet Murguía, the president and CEO of Unidos US which is the most influential organization in the US reflecting voice of Hispanics, has been working on the advancement of social status and improvement of education for Hispanic communities for many years. The experiences of helping Hispanics who are put socially and economically weaker positions to gain the strength to survive through education and raising awareness are on-going challenges that can be commonly shared with Japan which is also facing multicultural era today. This lecture is a dialogue with Prof. Shimizu and the main themes will be on what we should pursue to achieve the future multiculturalism both in U.S. and Japan, what the current challenges are and how we should overcome those problems.

- Lecture :** Janet Murguía
(Chief Executive Officer, Unidos U.S.)
- Date&Time :** Friday, August 17, 2018 18:30~20:00
- Venue :** International House of Japan, Lecture Hall (Annex 2nd Floor)
- Organized by :** The Japan Foundation Center for Global Partnership



Moderator

Prof. Mutsumi SHIMIZU
Professor, Japan Women's University

Prof. SHIMIZU specializes in educational sociology and school clinical studies. Since 1997, she has been researching on life of foreign children and their adjustment to schools, communities and home, mainly at Yamato City, Kanagawa Prefecture by interviewing and participant observation. She has earned her Ph.D in 2005 in Education, and published her book on children of newcomers in 2006. In parallel to these researches, she has been consulting with school teachers on education for foreign children, and been involved in social activities to support autonomous activities of the foreign children. In 2007, she has participated in establishing NPO Ed. Venture, and has been actively involved as a director. Since 2014, she has started interview-research with second generation of newcomers and been considering current school education in Japan while listening to their stories at school and home.

Japan's Multiculturalism

I see Japan at a threshold moment, maybe even an existential moment for itself. I see and understand that there is aging population with a need for new workers but it does not seem like they are going to be produced within Japan. I believe Japan is currently taking some short-term steps to address this worker shortage, but I believe that it needs a long-term solution, a sustainable solution, and I believe that it needs to design an immigration plan to address this gap.

I hope that the plan will not only function with efficiency, but also reflect the values that represent Japan. I hope that the immigration plan that is designed to address this challenge over the long term will also put a value on families being together as you move forward, since I see Japan values families. Then, the workers will contribute the economic benefits to Japan.

However, it feels like there is not currently a value proposition driving a path forward for Japan. The value proposition that has equity at its center, which means that both sides to be respected and benefitted as they come together to address this current challenge, is required.



The plan will not only functions with efficiency, but also reflects the values that represent Japan

Investing for the Future

I visited Homi Danchi in Aichi Prefecture. I was surprised to see the status of the housing for many who were doing very difficult jobs there. I know it is always challenging to find enough resources of supports for every aspect, but I think there can be a thoughtful way to support these families, and I hope that we will look at how to invest in their children, particularly for their education.

I heard a lot of stories about the challenges in educating the children of these foreign workers, such as acquisition of Japanese language and heritage languages, and special needs for foreign children, but I was not convinced that there was no solution. I believe there can be a solution to how we look at these children and find the right ways to support them.

I do believe that there are opportunities for Japan to use its ingenuity and find the way to move forward. I am so impressed by the infrastructure here in Japan. You have a transportation system that is the envy of the world. On the one hand, you can be a shining example for that ingenuity to the rest of the world, I believe you have the capacity to solve other problems or challenges as well. I am convinced that you can create a solution for education, housing and healthcare access for immigrants as they come in to provide economic benefits to this country.

Unidos U.S

For just over the last decade or so, I have been the president and CEO of Unidos US. It is the largest national Hispanic Latino civil rights and advocacy organization, which for 50 years has

championed the Latino community and broken barriers in their pursuit of the American dreams.

We advocate for immigration reform and more focus on immigrant integration, because we believe it is not only in the best interests of immigrants, but for our country. Helping immigrants to have access to that upward economic mobility, helping them become legalized, and helping them to become citizens means they can become stronger consumers, entrepreneurs, tax payers, employers, and leaders of every sector. We can make a case for immigrant integration, not because it is the charitable thing to do, but because there are real economic gains and returns to be had by those families, by their communities, and by the country.

Unidos US also believes in investing in young Latinos. If we are not investing in them today, they will not be ready for the jobs that we need to fill to keep our economy strong and growing. They will be the ones sustaining the retirement of aging Americans. We believe, then, it is in the best interest of all Americans to make sure that these young people can contribute all they can in the future by investing today in their education and job skills.

We can make a case for immigrant integration, not because it is the charitable thing to do, but because there are real economic gains and returns

Stars of Multiculturalism

You have stars. People who can help build the path forward for Japan are people like Ms. Kiyoe Ito who is the president of an NPO called Torcida. She led me through the Homi Danchi area. She is building bridges and leading in connecting the Brazilian communities with Japanese communities.

There is a very positive vibrancy that you sense

when you have leaders who can be developed at the local level. Proximity matters and some of these non-profits and individuals like Ms. Ito are doing very important work in building bridges.

Another star who lives in Homi Danchi is Gustavo Murayama. He came from Brazil when he was six years old, and he attended the Japanese schools. Despite the lack of enough support, he learned Japanese. And today he is working for a human resource company and is recruiting people to find jobs. There is power in Gustavo's story, and he can be a bridge-builder to the path forward for Japan.

You have stars. People who can help build the path forward for Japan

You have to be in those communities to see what is happening and encourage this kind of engagement. I work with 300 community-based organizations across America that are helping families. I am a believer in that. But there is a reason for it. I see the results in the United States, and in my week here in Japan. I saw the real energy and engagement, the bridge-building that was going on here and there.

We need strong leaders. I was very impressed by Mr. Ota, Mayor of Toyota City. He understands what is happening in the community, and he told me that diversity was strength for Toyota City. When people like him see a challenge, they do not look the other way, but are going to lean and say, "Maybe we should try this." We also need to support those strong leaders.

You have other great individuals. I remember here in Tokyo, in our first day, we met with Kyaw Kyaw Soe, a refugee from Burma. He is not only an entrepreneur and has a restaurant, is contributing, but he has founded a school that would help other Burmese refugees to learn Japanese and Burmese. When you unleash some of these individuals and give them the chance, they want to give back. And an attitude could be

developed where these people who come and are contributing are not in it just for themselves, but are invested in the future of Japan. There's a way to try to figure that out as you move forward.

My Experiences

On a personal note, my family's story is an example of what can happen when a country opens its doors to everyone who is willing to work hard and play by the rules. Both my parents could be described as humble, simple people. They came to the United States with big hopes and dreams for their children. They came from Mexico in the early 1950s. My dad had a only 7th grade education, and my Mom had 5th. My dad worked different jobs and ended up working at a steel factory in Kansas City for 37 years. With seven kids, my Mom and Dad, all nine of us lived in a very small house with only one bathroom. My siblings and I slept dormitory style in one large bedroom. I remember we did not have a phone until I was in the eighth grade. No clothes dryer, either. In Kansas City, in the 1950s, when my parents would go to a movie theater, they had to sit in a separate section of the movie theater for Mexicans. My father and other persons of

color, early on, were directed to use a separate bathroom.

My parents instilled in us a strong sense of values, including a strong sense of family, of faith, of community, of hard work and sacrifice. They taught us to value ourselves and to have big dreams about what we thought we could accomplish.

Despite the fact that they did not have much of education, they taught us to value education. In the early 1980s, five of their children were in college all at the same time, thanks to the generosity of scholarships and financial aid programs. After all was said and done, six of their seven children earned post-secondary education degrees and four of them became lawyers.

I will always remember that our story was possible because my parents came to a country where anyone who works hard and earns it can become an American and can have access to opportunity and American dream. This openness to new people is what has built America. Our diversity is our strength, and we as a nation will even be more dependent on it in the future. This is why we believe that it is imperative that our country continue to strive to be a beacon of hope, and that it continue to invest in people



Q & A 1

(question from Prof. Shimizu)

I agree that Japan values family. However, when it comes to acquisition of nationality, it is *jus sanguinis* (blood-based), and because of this, it is hard for children born in Japan from parents of foreign nationality to obtain Japanese nationality. On the other hand, in U.S. it is *jus soli* (right of soil), what do you think about this?

(answer)

This is my humble observation after spending almost one week here in Japan that, compared to Japan, for a large number of people in U.S. birthright citizenship, or who becomes a citizen, is a less subjective matter. I am not in a position to decide what is in your best interest. The solution for Japan will have to come from within Japan.

Nationality, identity, and culture are very sensitive issues. But I think we should get out of our comfort zones and try to engage in those kinds of conversations today. And I believe that conversations around identity are necessary, we have to decide what it means to be American. While we are having that conversation, we are trying to decide: Is it about what we look like, or about values, or about principles? Or about common vision to share? Those are not easy conversations. But I do think these are conversations that can be had.

What it means to be American. While we are having that conversation, we are trying to decide Is it about what we look like, or about values, or about principles? Or about common vision to share?

Q & A 2

(question from Prof. Shimizu)

Let me ask a question regarding diversity leading to growth. Diversity is strength. That is true and

that is a very important point. but in Japan, whether children have been adapted to Japanese society, including the language acquisition is more valued than what children can achieve. As a result, children can no longer keep the mother tongue of their parents and become monolingualism.

You mentioned that Japan has great infrastructure and that is achievement, but maybe that is because we have one language and we pursued efficiency, which enabled this growth. If that's the tendency we have, how can we understand diversity can lead to growth?

(answer)

I also heard many conversations this week about the importance of everyone learning Japanese. If that is really true, where is the national plan to support language acquisition in schools? If bilingual education and early childhood education are also important, how does the directive come from the top to bottom? I did not get a lot of details on that. I think there are a lot of issues which put sand in the gears toward that outcome that stifle progress.

I think this is a conversation that the nation needs to have. There is also need for transparency. What is at stake and what are the tradeoffs? We should not be afraid of discussing these things. The important thing is not to fear diversity. Even if some people are different from others, it is important to recognize that they can bring benefits to Japan.

The important thing is not to fear diversity. Even if some people are different from others, it is important to recognize that they can bring benefit to Japan.

If younger people in Japan have their thoughts and opinions, share them. I encourage you not to be afraid of having those conversations and to think about how much change we can bear and identify what that might be.

I do think there is a crossroad that Japan is facing and it is going to have to make some choices and I do believe that one of factors that can be an

important one as you make choices is, what path will mean that your better and brighter days are ahead of you as a country. Only you can answer that for yourselves.

Q & A 3

(question from floor participant)

While some people became successful in U.S. there were others who did not. What do you think made them fail? What kind of support could have led them to success?



(answer)

I can tell you what led our family to success, and that was education. Access to education was the key.

Having the right educational support, and again, we are still working on that issue in the United States. But my family's success story is not the only success story. There are many success stories in the US.

When we grew up, we were made believe that the sky was off-limit. We were encouraged to have big dreams. And learning English was never an issue. It was an assumption that everyone had to learn it. But there were supports to help us along the way.

I think that encouraging these young people to have big dreams, to value themselves, and to provide that access to educational opportunity with the right supports for language, and demonstrate that in your plans, in your education resources. To me, that is very important.

Encouraging these young people to have big dreams, to value themselves, and to provide that access to educational opportunity with the right supports for language. To me, that is very important.

Q & A 4

(comment from floor participant)

I am a teacher at a school with many foreign students. After I heard your lecture, I strongly felt for my students to be happy to be in Japan, like Ms. Murguía, I hope that their dreams will come true. I want to share my episodes with those who are more influential to move this country so that they can be our supporters. Thank you very much for your talk.

(reply)

Today someone said to me "America is a country of dream", and I thought about that, and again, we have our own problems and our own challenges, but being a country of dream is not a bad thing. Maybe there is an opportunity here in Japan for opening up opportunities for others and for everyone to achieve their dreams. That is a great ideal, and maybe it could be part of the elements that define what being Japanese means.

Lastly, let me say that I am not coming here as someone saying we have the answers. We do not. I am sharing what I believe have been tough lessons learned, and where I feel we have made some progress, but we still have a long way to go. But I will tell you, the more that we can tackle our challenges and our issues with a lens of equity, of fairness, and values, I think we are going to put ourselves on a strong path forward. Thank you.

